

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	海外の講師による授業の開講
<b>代表者名</b>	伊藤公雄
<b>事業概要</b> (600 字程度)	<p>京大との連携に特に意欲的な教員からの応募方式による講師採用を 2008 年度より継続して実施し、年間 4 人 1 か月ずつの招聘により 1 単位× 4 科目を提供する方式を定着させ、引き続き英語で講義を行う。</p> <p>2015 年度の講義提供者・講義内容は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① Michiyo Yoneno (フィリピン大学) 6-7 月 計 16 回 2 単位 Modern and Contemporary Asian Culture</li> <li>② Mary Louise Nagata (フランスマリオン大学) 6-7 月 計 16 回 2 単位 The Historical Demography of Late Tokugawa Kyoto</li> <li>③ Worawet Suwanrada (チュラロンコーン大学) 12 月 計 8 回 1 単位 Population Ageing and Fertility Decline in Thailand and Policy Responses</li> <li>④ HAN, Sang-Jin,(ソウル大学)、SHIM Young-Hee(漢陽大学) 計 8 回 1 単位 (Reconstruction of Intimate and Public Spheres</li> </ol>
<b>成果の概要</b> (800 字程度)	<p>2008 年以後、アジアや欧米の大学教員による英語での講義を通して、アジア社会の歴史と現状、さらに日本の歴史や社会を考える授業として継続して行ってきた本授業は、留学生を含む学生・院生に取って、今や、極めて重要な授業となっている。</p> <p>アジアの文化を俯瞰しつつ講義を行った日本出身のヨネノ教授の授業は、次世代ワークショップでのフィリピン大学の学生・大学院生と京大の学生・院生との交流にもつながり、両大学の交流の深まりを生むという点でも大きな意味を持った。</p> <p>京都の歴史についてのメリー永田先生の講義は、留学生に取っては英語での本格的京都の歴史の講義であるとともに、日本人学生に取ってもそれまで知らなかった情報が多く含まれたものであった。日本史教室との交流も含めて大きな成果があった。</p> <p>ウオラウエット教授のタイにおける少子高齢社会対応の政策の議論は極めて内容が濃く有意義なものであったが、残念ながら学生の出席が少なく、残念で会った。テーマ設定や広報の仕方も含めて、今後の工夫が必要だと考えている。</p> <p>ソウル大学名誉教授で国際的にもよく知られているハン先生とハン夫人でもあるシム先生の講義は、データに基づきつつ、社会学理論を駆使した講義であり、参加者からは、特に人気であった。</p> <p>以上、今回の 5 名の講師の授業は概ね学生に取って好評であり、また、今後の国際交流という面でも多くの成果をもたらしたといえる。</p>